

# まちのアルバム

## 入園おめでとう！

北野幼稚園で令和5年度第36回入園式が執り行われ、新しく46人の子どもたちが園の仲間となりました。

式に入場する際は不安な表情をした子どもたちでしたが、先生に名前を呼んでもらい、一緒にチューリップのうたを歌うと少しずつ緊張がほぐれ、笑顔がもどりました。

園にはたくさんの外遊び遊具があり、園長先生から「ブランコやすべり台は好きですか？」と問われると、子どもたちは元気に手を挙げ、これからの園生活を楽しみにしている様子でした。

また、市内各保育所（園）、幼稚園、こども園、小・中学校でも、入所（園）・入学式が執り行われ、子どもたちの新生活がスタート！

皆さんの健やかな成長をお祈りしています。

▼4月12日 北野幼稚園



### 《お詫びと訂正》

4月号「祖父母のための防災マップ、全国入賞！」の記事中、氏名に誤りがありましたのでお詫びし訂正します。

(正) 戸村 斗彰さん

(誤) 戸村 斗重さん

## 歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

224

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

### 絵図から読み解く地域の歴史

—江州栗太・野洲・蒲生郡之内絵図を読み解く—

現在、博物館では春期テーマ展を開催しています。本展でご覧いただきたい資料が、江戸時代の寛永18（1641）年3月に作成された「江州栗太・野洲・蒲生郡之内絵図」です。

本図は、江州、つまり近江国（現在の滋賀県）の栗太・野洲・蒲生の三郡を表わしたもので、次の2点にご注目ください。

1点目は三郡において江戸幕府が支配する村、つまり幕領を表わした点です。よって、描かれていない村は幕府以外の領主が支配した村、私領といわれる土地で、当時の三郡は幕領と私領が入り組む状態にありました。また、幕領については、石高（米の生産量）と年貢（税）、支配にあたった幕府役人の代官の名前など、その情報が詳しく記されています。

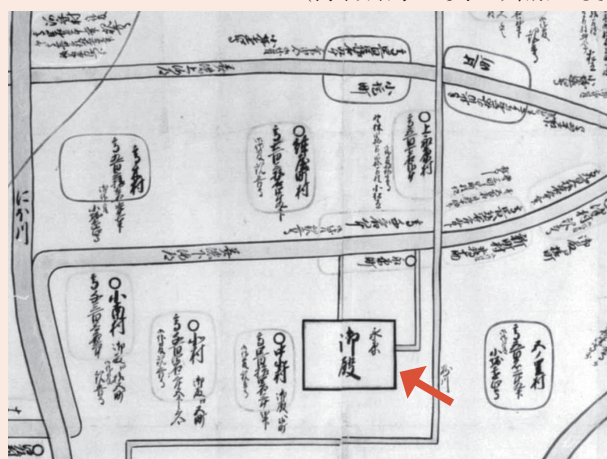
2点目は、中央部に「永原御殿」と表わし、幕府が支配する村から同御殿までの距離を記していることです。

これらのことから、本図は、幕領と私領が入り組んだ三郡において幕領支配のために作成した絵図といえます。

また、そのような状態にある三郡において永原御殿は幕府の重要な拠点であったと考えられます。

本図は、寛永18（1641）年当時に江戸幕府が三郡の幕領をどのように支配しようとしていたのかを考えるうえで重要な史料です。ぜひご鑑賞ください。

（博物館学芸員 齊藤 慶一）



江州栗太・野洲・蒲生郡之内絵図（一部）寛永18（1641）年3月（当館蔵）

※ ←部分に「永原御殿」とある。 ←は筆者が付したものの。

■春期テーマ展「近江国野洲郡 永原御殿 —徳川將軍の宿泊所—」  
開催中～5月28日(日)

※会期中の休館日：月曜日

※市民は入館無料（運転免許証やげんきカードをご提示ください。）

※市ホームページ等で事前に開館状況をご確認の上、ご来館ください。